

やなぎしま  
⑥柳島 <千代田町>

人口 132 人、世帯数 34 世帯

柳島は、千代田町の東端で国道 385 号線の東に位置し、みやき町（旧三根町）に隣接した集落です。近年は、国・県道の整備により、周辺に企業などの進出がみられ徐々に開発が進んでいます。

地区行事としては、老人クラブなどによる年末のしめ縄作り、体育部によるグラウンドゴルフ大会、農地水環境保全事業での花いっぱい運動などを行い、子どもからお年寄りまで地区住民の融和と親睦を図っています。

また、毎年行う春ごもり、麦ごもり、秋（みずいも）ごもり等の伝統行事も受け継ぎ、活気ある集落になりました。



▲花いっぱい運動での植栽(プランター)作業

おおいし  
⑤大石 <千代田町>

人口 140 人、世帯数 35 世帯

大石は、東大石（蓮池藩）・西大石（鍋島藩）が昭和 43 年に合併して誕生し、当時の戸数は 35 戸で行政区は大字姉となりました。

今も残っている橋が両国橋と名前があるのは、その証しであります。昔から堀に囲まれた集落であり、夏には堀全体一面にハスの花が咲いて綺麗なものです。堀干しが盛んで鮒を捕っては正月用の食生活の材料としてありました。年に 4 回の祭りごとがあり、5 月はお釈迦様、7 月は理趣分さん、11 月はお日待ち、12 月は村祭りが年中行事として行われていて現在も続いています。



▲大石の環濠集落

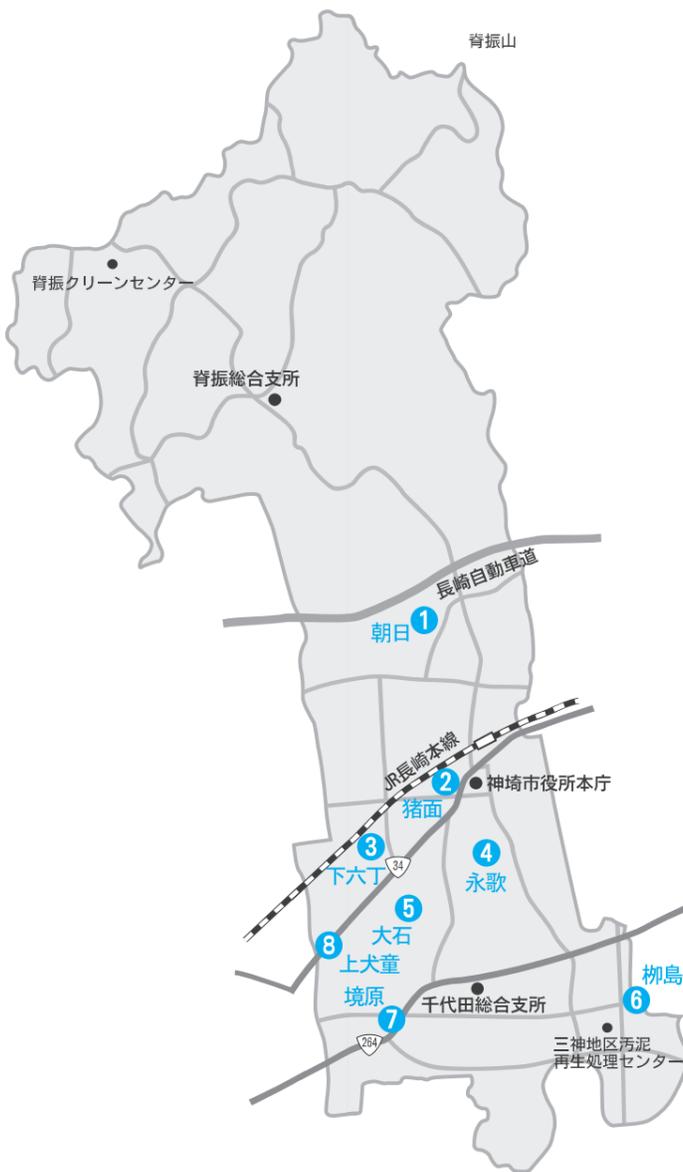
# 地区紹介 8



市民相互の理解と融和を図るため、市内 121 地区（神埼：63 地区、千代田：49 地区、脊振：9 地区）を紹介しています。

今回は、7 地区を紹介します。

※人口、世帯数は、平成 20 年 9 月末日の住民基本台帳のデータです



いのもて  
②猪面 <神埼町>

人口 111 人、世帯数 31 世帯

猪面は、城原川右岸神埼町のほぼ中央に位置しています。城原川からの清らかな水が流れこぶ集落内の水路には、鯉を放流するなど、のどかで静かなたづまいの集落です。

伝統行事としては、綾部神社参拝、八朔祭、権現講（彦山参拝）村祭を年間行事として実施しています。また、平成 17 年度から 3 年間佐賀県の補助金を受け水と緑豊かな猪面地区の資源を後世に残すため日の隈山や脊振山系、JR 長崎本線、城原川、水車を模り「猪面」児童公園としてジオラマの整備を地区民総出で行い、地区の憩いの場及び子どもたちの学習の場として活用しています。



▲鯉を放流している水路

あさひ  
①朝日 <神埼町>

人口 245 人、世帯数 72 世帯

朝日地区は城原川の右岸に位置し、南北は約 2km あります。上流地区には仁比山公園があり、中程には櫛田三所大明神とされる白角折神社があります。日本武尊を祭神とし、地区の繁栄と子どもたちの健全育成、村人の幸せを願い 8 月に神事を行い、同時に全員参加の夏祭りを行っています。神社の境内には県の天然記念物である樹齢千年とされる大楠があり、根廻り 10.5 m あり、県内屈指の巨木です。神社の神木として大切に守られています。

老人クラブは、会員相互の愛と調和をテーマに恵まれた自然環境の保存と精神文化を伝承するため、花いっぱい運動や生涯学習を行っています。



▲白角折神社の大楠

かみいぬどう  
⑧上犬童 <千代田町>

人口 564 人、世帯数 186 世帯

上犬童は、千代田町の最北西に位置し、地区の北西部隅を国道 34 号が斜めに通過しています。西側は佐賀市と接しており、東の方は中地江川を境界とする、東西約 1km、南北 600 m 程度の地区です。

藩政時代には、一帯に 30 町歩ほどの「犬童林」と呼ばれる竹林があって、鍋島藩の狩場であったが、明治初期に職を失った士族が開拓したと「町史」に記されています。現在でも純農村地帯の風景をとどめていますが、県都佐賀市の中心部に近く、交通の便も良いため、世帯数はかつての 4 倍近くに増加しています。

現在、農地・水・環境保全事業に取り組んでおり、上犬童を終の住処(いのすみか)とする新旧住民が力を合わせて、明るい地域づくりを目指して活動しています。



▲藩政時代の「犬童林」記念碑

さかいばる  
⑦境原 <千代田町>

人口 193 人、世帯数 58 世帯

地区名の由来は、境は神埼郡と佐賀郡の郡境、原は、広い場所でない広い原野が広がっていたところから付けられた地名と考えられています。長崎街道の境原として栄え、江戸の中頃には原の町と合わせて 200 戸と大きな町並みであったと想像されています。明治 7 年の佐賀の乱によりほとんどが焼失し現在の原の町とあわせて 170 戸になっています。

地区の伝統行事は、もぐらうちや、地区には、吉備神社（祭神吉備真備）があり、8 月には祇園祭を子どもたちが主体になって行います。現在、子どもたちが減ってきていますが、大人が協力して伝統行事を守って行きたいと思っています。



▲地区に伝わるもぐらうち

ながうた  
④永歌 <神埼町>

人口 544 人、世帯数 165 世帯

永歌は、神埼町の南部にあり昔から水害の多い集落で大水などに悩まされてきました。

毎年 12 月 8 日を天満宮祭り定め、祭りを行っています。昔は 1 歳の子どもから老人まで村全部で行ってました。最近では永歌本村を中心に各世帯から祭りに参加しています。それに伴い、祭主は前日より準備をします。鳥居のしめ縄作り、旗上げ、拜殿の飾りなどが終わって翌日の朝より櫛田宮にたのみ豊作、家内安全、健康祈願をしております。帰りにお神酒、みかん半切、焼大豆、いものこを貰って帰るしきたりです。



▲永歌にある祭殿

しもろくちょう  
③下六丁 <神埼町>

人口 259 人、世帯数 79 世帯

昔は、クリークに囲まれた当地区は各家が、裏戸を開けると川じ棚、そこは台所であり洗濯場 釣り糸を垂らすと大きなフナがよくつれたもので、夕食には魚料理のオンパレード。佐賀のガバイばあちゃんそのものでした。

今は、通勤通学又、商業地区に近く利便性にとみ世帯戸数も増え続け混在化しています。年 2 回の通勤通学路への花の植栽は街づくり、地区総出で行いコミュニケーションの場と成っていますし、交通事故のない楽しい綺麗な通学路になっています。道路や川面に映えるしだれ柳にみせられてか？今、日々草の花の植栽をしています。日々草の花言葉は友情です。



▲地区みんなで日々草植え